

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カトマンズの住民が主体となってバグマティ川の汚染を食い止めることにより、生活環境が改善する。
(2) 事業内容	<p>地元の V.D.C. (Village Development Committee, 日本の行政村にあたる) との連携により、以下の内容を実施した。</p> <p>◆地震の影響による進捗の遅れ 2015年4月25日および5月12日に発生した地震の影響で、事業が計画より遅れている。 住民にとっては、まずは生活の立て直しが急務であり、当会においても、まずは事業地の被災状況を確認し、政府等からの支援が届いていないところには水や雨除けシートといった救援物資を確保・配布することが最重要であった。6月以降はモンスーンが始まるとともに、田植えの時期となり、研修及び建設作業を再開させること自体が困難になった。 これらの背景から、本格的な事業への取り組みは雨期明けの9月以降に延長せざるを得なくなった。</p> <p>◆分散型排水処理施設の建設【ハード】 案件申請時に予定していた分散型排水処理施設（以下、DEWATS）の設置場所は、対象世帯からの排水を施設に流入させるにあたっての十分な傾斜を確保できない恐れが生じた。そのため、十分な傾斜を確保し、排水処理能力を最大限に発揮するための方法に検討していたところ、近隣に十分な傾斜を確保できる、設置に適した土地が見つかった。また、その土地の利用についても住民グループの理解を得られたため、DEWATSの設置場所を変更した。これまでに、土地の測量や、対象となる世帯の分布図（地図）を実施し、170世帯程度をカバーする DEWATS の建設を行うこととなった。 本格的な建設工事は雨期明けから実施する見込みである。現在、行動計画表（施設建設にかかるスケジュール・予算を一覧にした書類）を作成・共有するための準備、資機材の調達等をおこなっている。</p> <p><活動記録> 3月18日 変更予定地の周辺水質検査 ※添付資料 4月第一週 変更後の対象世帯を確定させるための世帯調査 4月9日、10日 変更予定地のフィージビリティ調査（土地の測量、対象世帯の検討等）</p> <p>◆対象地域住民に対する研修【ソフト】 上記 DEWATS 設置場所の変更に伴い、対象世帯も変更となるため、住民グループとの調整を行ってきた。 建設工事の再開と時期を同じくして実施すべく、季節や DEWATS 建設の行程にあった研修のスケジュールや詳細な内容を企画中であ</p>

	<p>る。</p> <p>◆指導員の養成【ソフト】</p> <p>地域住民自身の手によって、住民主体の生活排水処理の技術・コスト・運営方法を普及させることを目的に実施。本年次は、第1年次で事業の対象であったデシェ村の住民のなかから、他地域へ活動を普及させることに強い関心を持つ者を募り、指導員20人を育成する（以下、TOT研修）。</p> <p>上記研修と同じオーダーでTOT研修を実施する予定であったが、地震によりデシェ村のDEWATSが破損したことで、研修の順序を変えて実施することとした。具体的には、実際の修復の過程を追いながら、住民グループの運営や資金管理、メンテナンス、アクションプランづくり等住民主体の運営に必要なスキル、考え方について、他地域に普及するときに注意すべきポイントを確認することとした。</p> <p><活動記録></p> <p>5月14日～ DEWATS破損状況の調査、定期チェック</p> <p>7月5日～ 互助組合メンバーへのアドバイス</p> <p>8月14日 施設のメンテナンスに関する研修</p>
(3) 達成された効果	<p>【成果1】 貧困層が管理運営できる、低コストかつ中間技術を使用した分散型排水処理施設を建設することにより、汚染の増大を食い止める。</p> <p>→生活排水がバグマティ川に流れ込む地点近くに、170世帯程度からの家庭排水を浄化する機能を持った分散型排水処理施設を設置する見通しが立った。</p> <p>今後、施設を完成させ、住民の手で運用することで、バグマティ川の汚染を食い止め生活用水として利用可能な指標レベルの達成に寄与するものである。</p> <p>【成果2】 地域住民が、川の汚染状況と、汚染の原因が日々の生活習慣にあることを理解する。</p> <p>→（未実施）今後実施予定の研修にて達成見込みである。</p> <p>【成果3】 対象地域住民の中から、「地域コミュニティ住民生活排水処理の必要性とその方法」について具体事例を踏まえて他地域に普及することができる（バグマティ川及び事業実施地域・他地域での研修を指導することができる）指導員が養成される。</p> <p>→上記活動を通じて、自分たちが当事者としてDEWATSを維持・管理していくために、自分たちで何を決めていかなければならないのか。</p>

	<p>自分たちでできること、外部者の協力が必要なことは何かを認識し、「誰が」「いつ」「どこで」「何をするか」「コストはいくらか」「どう調達するのか」といった点について、関係者が共有できる行動計画を作成していくスキルを身につけ始めている。</p> <p>また、自分たちでできる施設のメンテナンス（施設内の清掃等）についても、メンテナンスマニュアルをもとに研修をおこない、DEWATSの仕組みについて理解できていること、理解できていないことを整理している。</p> <p>これらの実体験から、他地域の住民（具体的には今次事業の対象地域住民）に対して、同じ目線から具体的かつ効果的なアドバイスができることが期待できる。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>上記(2)事業内容で述べたとおり、地震の影響で事業が中断し、再開までに時間がかかっているが、研修と建築作業を同時並行で実施することで、調整する予定である。ただし、今後の進捗状況を見て1ヶ月程度の期間延長申請をする可能性がある。</p> <p>◆分散型排水処理施設（DEWATS）の建設 雨期が終わる9月以降に基礎工事を開始する見込みである。DEWATS本体は12月末までに建設を終了し、その後の1～2ヶ月で各家庭からの家庭排水をDEWATS本体に流入させる見通しである。 震災後は実質的な作業はストップしていたものの、当該住民グループとのコンタクトは継続させており、工事開始はスムーズに進むものと見ている。</p> <p>◆対象地域住民への研修 この研修に先駆けて第一年次の事業地であるデシェ村からの指導員を養成する9月以降に実施する。 その後、上記建設作業のスケジュールに合わせ、以下の4つのテーマに関する研修を10月～12月にかけて実施する予定である。建設段階に合わせて研修を実施することで、対象地域住民のオーナーシップを徐々に醸成させることもねらう。</p> <p>①汚染のメカニズム（合成洗剤・油脂類・生ゴミなど、ゴミの種別ごとの性質と、汚染を生む仕組み） ②日常的なゴミの処理方法（上記①で分析したゴミの種別ごと） ③分散型排水処理施設の保全方法と互助組合の運営方法 ④水質検査の方法</p> <p>2016年1月以降には互助組合の設立を促し、設立に必要なサポートを行っていく。</p>